



鵜 戸

発行者兼編集者
鵜 戸 神 宮
社 務 所

印刷所
西 日 本 印 刷

ごあいさつ

宮司 佐師 朝規

暑中御見舞

申し上げます。

暑さ殊に酷しき折から御自愛の程祈りあげます。

本年は待望されておりました御本殿の改修工事も二月に着工する事が出来ました。之も偏に皆様方の御協力による事と厚く御礼申し上げます。



當神宮の創建は第十代崇神天皇の朝約二千年前と伝えられており後第五十代桓武天皇の朝（約千二百年前）光喜坊快久が勅命を奉じて再建され其の後度々御造営が行われ中御門天皇の朝正徳元年御造営になったものが現在の社殿で二百八十六年を閲して居ります。この間明治二十三年、昭和四十三年七月に改修されそれより二十八年を数える今年本殿全体が塩害湿気日射により塗装の変色屋根銅板の腐蝕や其の他各所に弛緩弊害が生じて来ましたので着工致し平成九年十一月六日に本殿遷座祭、十一月八日に本殿遷座奉幣祭を斎行の予定です。

尚本殿は平成三年八月一日日南市文化財指定され、平成七年三月二十三日宮崎県指定有形文化財に指定されました。

愈々職員一同も協力一致精進致し、神宮発展と御神徳高揚に努めたき所存でありますので、一層の御力添賜ります様御願致します。尚皆様方の御健勝と御多幸を祈念し御挨拶と致します。

仮殿遷座祭齋行

当神宮は、日向灘に直面する神秘的な岩窟に鎮座ましまし、神武天皇の御父君・日子波瀲武鸕鷀草葺不合尊を主祭神と仰ぎ奉り、天照大御神を初め五柱をお祀りしている。

この本殿の塗り替え、屋根銅板の葺き替えの改修工事を前に、二月十八日午後七時より宮司以下祭員によって、仮殿遷座祭が厳粛に斎行され責任役員、総代などの参列を賜った。

遷座祭は本殿にて宮司祝詞奏上の後、本殿から本殿北側に隣接する仮本殿まで布単と絹垣の幕が敷き巡らされた。笏拍子を合図に、すべての明かりが消され、遷御の儀に移った。岩窟内に響く奏楽と神職の警蹕、時折聞こえる波の音の中、陰燈のほのかな明かりに導かれながら、第一殿から第三殿の三座六柱の御

祭神が仮本殿に遷御された。

仮本殿前では、神饌が供えられ、宮司の祝詞奏上に続き奏楽、玉串拝礼と執り行われた。

尚、二月十六日午後七時より、仮殿となる末社の住吉・火産靈・福智神社の三柱を本殿南側の皇子神社にお遷しする遷座祭も斎行された。



例祭齋行と奉祝行事

厳寒の季節とはいえ、晴天に恵まれ穏やかな一日となった二月一日、献幣使日高三友氏（県神社庁南那珂支部長）参列の下、午前十一時より例祭が厳粛且つ盛大裡に斎行され、責任役員、氏子、崇敬者総代を始め、四神宮（英彦山、霧島、鹿兒島、宮崎）宮司、県内外神社宮司、官公衙関係、日南市、北郷町、南郷町各地区々長、全国各地の崇敬者多数の参列を賜った。

祭典には、舞楽「蘭陵王」と福岡藩伝「柳生新影流兵法 第十三代宗家 蒲池鎮浪氏による活人剣、四方払いが奉納され、参拝者は舞楽の華やかさと、糸をピンと張ったような緊張感を漂わせる兵法の技に見入っていた。

奉祝行事として儀式殿前広場にて、第二十五回鶴戸神宮奉納四半的弓道大会が開催され、六十九チーム、三一九名が参加し競技が行

われ、和やかな雰囲気の中にも射る鋭い眼差しがあった。

又、二月八日の土曜日に、第四十四回剣法発祥鶴戸山頭彰剣道大会が開催された。当日は生憎の雨となつた為、会場を日南市の多目的体育館に移し、一二七チーム、約一三〇〇名が出場し、終日熱戦が繰り広げられ、鋭い気合いを発しながら竹刀を打ち込んでいた。尚、四半的大会、剣道大会の成績は次の通り。

〔四半的大会〕

〔敬称略〕

〔団体〕

▽①中郷1（都城市）②日南1（日南市）③日向7（日向市）（個人）

▽男子①蘭田武雄（小林市）②小玉玉雄（串間市）③日高副美（串間市）④日高進（日向市）⑤谷山通美（小林市）⑥富岡春清（宮崎市）▽女子①竹山アヤ子（日南市）②大山月子（都城市）

③大田原ヒデ子（宮崎市）④馬場セツミ（都城市）⑤谷口ハツ子（宮崎市）⑥甲斐トヨ（宮崎市）

〔剣道大会〕

▽一般①県警機動隊②宮崎刑務所③児湯郡、都城市役所▽高校①延岡学園（延岡市）②宮崎日大（宮崎市）③鵬翔（宮崎市）宮崎北（宮崎市）▽中学①大宮（宮崎市）②赤江白虎（宮崎市）③北辰館（宮崎市）陵武館（国富町）▽小学①朱雀館（宮崎市）②上長飯剣友クラブ（都城市）③大東武道館（串間市）貫心館（新富町）〔女子個人〕

▽高校一般①甲斐寿子（宮崎北高）②久保田理絵（同）③甲斐綾子（同）小田弥美（延岡学園）

▽中学①木村法子（朱雀館）②天辰美鈴（三松中）③立本泰子（福島中）安田美希（朱雀館）

▽小学六年①領家麻奈美（上長飯剣友）②梅野今日子（青雲道場）③長友綾佳（玄武館）梅木由香（青雲道場）▽小学五年①鳥津充希（稲門館）②藤木千春（神武館）③



長野裕美（同）大重晴香（同）▽小学四年①深江香代（剣心館）②榊田幸（青雲道場）③領家麻里絵（上長飯剣友）下津曲望末（貫心館）

祈年祭齋行

今年の五穀豊穡と国家の安泰を祈る祈年祭が二月十七日厳粛に斎行され、責任役員、氏子崇敬者総代を始め多数の参列を賜った。

当日は、午前十一時より宮司以下祭員によって奉仕され、宮司祝詞奏上の後、「浦安の舞」が奉納された。

この祭りは、農耕を主としてきた日本人にとっては古代より行われてきた大切な祭りである。



第十一回シヤンシヤン馬道中唄全国大会 開催・シヤンシヤン馬道中再現

「鶴戸さん参りは春三月よ」と全国的に愛唱されているシヤンシヤン馬道中唄全国大会が、三月二十二日、二十三日の両日開催された。二十一日は、日南市文化センターで予選が行われ、県内外より二歳から八十九歳まで過去最高の五八七名が出場した。

二十三日は、会場を鶴戸神宮儀式殿に移し、決勝が行われ予選を勝ち上がった一九〇名が、少年、青年、寿年、老年、実年、壮年の各部門に分かれて競い各部の優勝者の中からグランドチャンピオンが選ばれた。

参加者は、太鼓や三味線、尺八の軽快なリズムに合わせ、声高らかに歌い上げた。会場は、民謡愛好家や一般参拝者で所狭ましと埋まり、唄の終わるたびに大きな拍手が送られていた。

各部の入賞者は次の通り。▽少年部①浜地涼子（日南市）（敬称略）

又、同大会に合わせて「シヤンシヤン馬道中を再現する会」主催の第十一回鶴戸さん詣りも行われ、県内外二十組の応募者の中から、横山靖匡・博子さん（宮崎市）、森山貴文・由起さん



（千葉県）、林哲也・幸さん（福岡県）夫妻の三組の新婚式参拝の後、花嫁が乗った馬の手綱を花婿が気づかないながら引き、全国大会決勝戦参加者全員の高らかな唄声の中境内を一周した。参拝者も、昔ながらの出で立ちの新婚さんにはばし足を止め、カメラに収めたり一緒に記念撮影をする姿があちこちで見受けられた。

別当宮司 先賢慰霊祭

五月十九日午前十一時より歴代別当宮司遺族、責任役員、氏子総代をはじめ多数の参列を賜り、別当宮司先賢慰霊祭がしめやかに斎行された。

同祭は当神宮特殊神事の一つとされ、古例により神仏合同の慰霊祭として位置づけられており、宮司祝詞奏上に続き、潮満寺住職伊勢木俊真氏外僧侶二名により経が奏上され、御詠歌の法要、玉串拝礼と執り行われた。



御本殿改修工事

現在改修工事の経過を報告致します。

漆塗工事は、拝殿、幣殿の建具等は日光工場にて作業中で、仕上げ後搬入予定。本殿内においては、外部長押より上部垂木斗拱は下塗中であり、長押より下部の地長押までの間は下地付中。尚、内部長押より下部の柱等など下塗中であり、内部長押より上部、拝殿、幣殿垂木虹梁斗拱などは作製を終えた。

彩色工事は、五月初旬より着工、拝殿内部及び脇障子壁画を見取り後、日光工場にて復元図作製、後日現場にて施工予定。拝殿内鏡板龍図と幣殿格天井板絵は清掃後、剥落止めを施工した。内部長押より上部の各裏股虹梁彫刻各天井折り上げ部彫刻等は施行終了した。屋根工事の、銅板葺きは順調に進行し、六月に終了した。



御本殿改修工事につき御協賛のお願い

現在の御社殿は、昭和四十三年七月に改修を終えましたが、その後歳月を経て塩害・湿気、日射等により塗装の変色、屋根銅板の腐蝕等が生じ、外観も痛みが進んできた為、平成九年二月十八日に仮殿遷座祭を斎行し、二月二十日より改修工事に着工致しました。現在平成九年十一月六日の本殿遷座祭に向けて工事が進められています。

就きましては、より一層の御神威の発揚をはかりたく、皆様方の御協賛をお願い申し上げます。

御本殿改修 協賛者芳名

- (平成八年十一月五日
〜平成九年四月三十日)
(敬称略)
- 有園すみえ
 - 久徳 浩
 - 薄井 秀雄
 - 山下 与平
 - 山一工務店
 - 安田 栄次
 - 富永 優
 - 古川 俊章
 - 宝徳ハマ子
 - 錦田 法照
 - 小野 時男
 - 辻原 網秀
 - 岩崎伊久子
 - 村上 鹿一
 - 福澄 寿信
 - 白田 圭吾
 - 堀 琴子
 - 門澤 裕美
 - 増山 克己
 - 安田安兵衛
 - 竹下 昌江
 - 森本 利治
 - 森 國治
 - 岩本 網夫
 - 若山 行雄
 - 松岡 宣彦
 - 上田 良雄
 - 樋口信三郎
 - 榑井 敏雄
 - 塩川 祐吉
 - 安部 直明
 - 寫野 正利
 - 岩崎 規利
 - 船田 克己
 - 鍛冶屋敷久
 - 川田 朝子
 - 根岸 勝章
 - 小倉 敏男
 - 長尾 光博
 - 吉村 忠男
 - 岡田 明子
 - 福島 静子
 - 安東 一二
 - 鳩谷 邦男
 - 梅田 雪嶺
 - 戸部 咲子
 - 岩切 勝実
 - 西田 清敬
 - 中原 義廣
 - 坂口 優子
 - 藤井 紀子
 - 長友 敏市
 - 岡平三四郎
 - 横山 正輝
 - 中山 晃
 - 前田 淳一
 - 安下 共一
 - 麦田 吉造
 - 岩切 清武
 - 脇 了二
 - 野村 盛経
 - 濱田 数一
 - 高橋 洋
 - 濱田 良昭
 - 高麗 正
 - 加賀 敦
 - 村田 寿
 - 七村ひとみ
 - 迫田 瑞雄
 - 年森美智子
 - 岩本 務
 - 若松 洋子
 - 若松 健一
 - 阿久根茂孝
 - 大磯 正
 - 白田 洋一
 - 田中 健一
 - 鈴木 憲男
 - 時宗 章
 - 石田 幸子
 - 古賀 晃
 - 杉谷 俊夫
 - 山元 春雄
 - 森 和広
 - 橋本 耕
 - 河野 祐治
 - 沖田 孝司
 - 香村 泰昌
 - 上西 貞盛
 - 稲田 浅雄
 - 海老原直美
 - 佐藤 任夫
 - 相沢 晴長
 - 比留間栄和
 - 渡邊 清
 - 鈴木 克子
 - 秋野 征治
 - 岡内 勝子
 - 永倉 凡夫
 - 堤 和弘
 - 三嶋きみ子
 - 長友 イト
 - 長友美喜子
 - 左原 貢
 - 高野 幸一
 - 寺坂 文博
 - 脇 浩隆
 - 和田有喜夫
 - 小里とみゑ
 - 生駒ノブ子

鵜

戸

- 中山 倫子
- 野中恵美子
- 福崎 輝子
- 西村利亀雄
- 中嶋 祥二
- 鈴木 猛
- 上符 進大
- 西 範子
- 山下アヤ子
- 三川泰二朗
- 梅沢 善昭
- 黒木 和子
- 高橋かよ子
- 大西 瑞穂
- 味岡 正勝
- 芝山 恵子
- 対田 隆一
- 林 仲次郎
- 中村 安太
- 高橋 幸雄
- 能見 義武
- 伊藤美智枝
- 中西 利雄
- 井沢 義武
- 宮保 喜一
- 甲斐 勇生
- 山本 学
- 垣内 守夫
- 竹谷 祐仁
- 白熊 智子
- 岩部 伊八
- 廣瀬 信行
- 須永 豊
- 三村 大
- 石田 充
- 押川 満男
- 悦野啓次郎
- 脇田 南美
- 金井 政幸
- 池永 吉春
- 白杵 和宏
- 妹尾 尚志
- 太田 修
- 堂田 勝郎
- 宮本 克美
- 梅木 一美
- 高吉 峯行
- 和田 皓
- 北澤美知男
- 生見 浩一
- 畑田天眞如
- 天眞株式会社
- 倉 英人
- 磯貝 守孝
- 宮川 治郎
- 河野 和由
- 大森 通義
- 犬飼 好吉
- 西岡 康次
- 富澤 節子
- 金子原二郎
- 高橋 董宗
- 松本 数明
- 乾 義夫

- 川上 一
- 平岡 茂信
- 畑中 定弘
- 豊川 隼見
- 土井 和成
- 片野久美子
- 田平 博夢
- 鈴木 春行
- 原 幸一
- 長友 康夫
- 松嶋 章夫
- 前山 叙之
- 佐藤富士子
- 谷口和音奈
- 倉茂 京子
- 平野 武彦
- 立溝 光令
- 内田 晃
- 道前 近志
- 清水 満雄
- 本橋 亘
- 長井 巧
- 圖師 欣彦
- 川内 義弘
- 江崎 正典
- 里見 精重
- 渡辺 等
- 岡崎マサエ
- 真戸原進一
- 岩下 和則
- 蛭原 淳一
- 木崎 光代
- 宇都 敬一
- 中村 一男
- 井川 雅博
- 岩満 国敏
- 岩満 寿朗
- 荒木美和子
- 川北三子
- 沼本 隆
- 遠矢 勝強
- 上浦豊一郎
- 高橋 良子
- 鶴戸西宗雄
- 田尻 善徳
- 長屋 国勝
- 渡辺 勇人
- 後藤 栄策
- 前野 昇
- 落合 功
- 佐伯 公義
- ギフト館
- さかもと
- 渡辺豊志美
- 地福 敏文
- 馬庭 満
- 下平 隆敏
- 山瀬 育子
- 繁森 隆義
- 山下 行雄
- 黒木 兵市
- 新納 勝真
- 鍋倉 征夫
- 小田原 弘

- 井上 泰治
- 市川 庫夫
- 小野 武則
- 楠本 勝茂
- 佐藤 浩平
- 福田 光則
- 川端 将敬
- 矢野 重二
- 瀬田 稔
- 山村 嘉康
- 楠本 義秋
- 保岡 功
- 大田 作郎
- 藤井 輝義
- 宇都 敏国
- 福留 一実
- 古田 義勝
- 古田 真次
- 倍 敏郎
- 三重野 求
- 石川 展
- 福留 三郎
- 佐藤富士夫
- 黒島 辰己
- 辻 洋之介
- 濱田 靖人
- 前田 浩一
- 土屋 節雄
- 押富 敏哉
- 川内 辰博
- 古澤 久雄
- 外山 亨
- 坂本 昭治
- 鈴木 進一
- 寺尾 三郎
- 木場 政美
- 小田 彰一
- 鯉坂 淳治
- 川畑 淳治
- 前迫 房子
- 御手洗静枝
- 外山 文弘
- 宗田 光男
- 郡司 林
- 海老澤 建
- 吉留 趣
- 内海 義啓
- 井上 信生
- 津江 利國
- 増井 裕之
- 岩切 和彦
- 藤田造船所
- 鶴飼 幸子
- 小城 昌秀
- 柳ソコ
- 辻 貞夫
- 大山 俊一
- 木佐貫 光
- 深田 益央
- 土屋 昭次
- 秀島由紀子
- 松本 忠彦
- 平田 正春
- 柳萬 辰美

- 池田 敬美
- 木元 弘子
- 藤井 廣士
- 長友 邦夫
- 満留 栄一
- 森 雅宏
- 河野 清
- 高嶋 優
- 小野 靖子
- 鬼束 利男
- 青山 国夫
- 松田 豊臣
- 松田 一洋
- 郷原 昌平
- 川口 伸幸
- 満留キミエ
- 吉田 計
- 池田 シヅ
- 金子 和恵
- 北野園勇作
- 松井 藤貞
- 長沼 京子
- 有馬 節子
- 福永富士雄
- 小谷野 猛
- 山下みつ子
- 河野 通親
- 大塚 慎吾
- 國本 房江
- 溜池 隆吉
- 奥本 喜信
- 岩切 勝実
- 西田 清敬
- 中原 義廣
- 坂口 優子
- 藤井 紀子
- 長友 敏市
- 岡平三四郎
- 横山 正輝
- 中山 晃
- 前田 淳一
- 安下 共一
- 麦田 吉造
- 岩切 清武
- 脇 了二
- 野村 盛経
- 濱田 数一
- 高橋 洋
- 濱田 良昭
- 高麗 正
- 加賀 敦
- 村田 寿
- 七村ひとみ
- 迫田 瑞雄
- 年森美智子
- 岩本 務
- 若松 洋子
- 若松 健一
- 阿久根茂孝
- 大磯 正
- 白田 洋一
- 田中 健一
- 鈴木 憲男
- 時宗 章
- 石田 幸子
- 古賀 晃
- 杉谷 俊夫
- 山元 春雄
- 森 和広
- 橋本 耕
- 河野 祐治
- 沖田 孝司
- 香村 泰昌
- 上西 貞盛
- 稲田 浅雄
- 海老原直美
- 佐藤 任夫
- 相沢 晴長
- 比留間栄和
- 渡邊 清
- 鈴木 克子
- 秋野 征治
- 岡内 勝子
- 永倉 凡夫
- 堤 和弘
- 三嶋きみ子
- 長友 イト
- 長友美喜子
- 左原 貢
- 高野 幸一
- 寺坂 文博
- 脇 浩隆
- 和田有喜夫
- 小里とみゑ
- 生駒ノブ子

仙石 和郎	笠原 勇吉	久岡 義雄	中島 和彦	津田 良逸	有富 重芳	早川 周吾	田坂 匡	川野 康義	熊谷 梯子	阿角 由三	岡本 靖	エミサイ	フィリップマン	鈴木 陽一	松田 滋	田中 敏孝	三野野信夫	有働 征志	白石 五男	加藤 壽彦	鈴木 哲	長友 良弥	水口 忠孝	馬場 慎子	松下 健一	浅野 富子	山本 和義	登丸やす子	水谷 孝晴	中尾 紀一	松浦 知夫
百田正三郎	川崎 雄二	小田 重男	菊原 久暢	山形 イツ	山崎 直子	藤村 直子	先崎 勇	川瀬 忠通	鈴木 昭	今村 瞳	佐藤 俊晴	西口 勇雄	田村 昭三	吉田久美子	山口佐和子	山本 弘	小野寺富男	洪 進田	張 世憲	日爪 嘉男	松原 巧	田子 珠三	川口 光雄	田中 崇	那須 亨	三浦ルリ子	鈴木 訓弘	西山美枝子	栗山 公夫	阿部 喜内	瀬田 徹
北山 幸子	沼田 弘子	寺門 敬	奥田 友吉	西川忠之助	藤原 健治	高橋 君雄	松永 匠介	小野 清治	大塚 猛	阿部 美子	川野 蘭	三村 英作	奥村トシ子	馬場 亨一	吉田 弘	新田 岩男	赤川 昭彦	箱崎 義弘	山下 壽美	屋地 幸実	堀内 裕之	助田 成喜	西出 俊行	西森 清次	植本 鉄夫	竹良ナミ子	竹良 由光	栗山 幸雄	建石 博幸	河野 司	豊岡 向
福山 貞齋	白坂 敏	秋山 治夫	橋本 忠之	石渡久美子	余田はるみ	中南 清子	佐藤吉之介	田中 良昌	佐藤 貢	金崎 正彦	宮崎 忠男	松田 豊孝	本間 誠	平 春守	森 利春	吉田 尚子	宮本マツ子	池田 シズ	都外川啓嗣	黒岩 久雄	伊藤 勝恵	木田 義一	森山 美季	庄子 好子	可児 弘規	岩永 雄三	今村 鞆子	平山 靖倫	小池 志知	小川 鶴吉	細田 春雄
伊藤 貞男	志和 栄茂	吉村 秀一	吉村 秀一	木場田修治	土本 真士	四十九為子	大城 昭	岩元留美子	田中 啓雄	豊浦 淳	菱井 國久	上田 雄二	本田サチコ	松元 國雄	米倉 武司	栗林 高俊	大場 博	柳原スミ子	浜田 和男	玉置 榮	伊藤 芳輝	井上 和子	丹羽三三男	中嶋 慶次	柳 隆男	河村 幸人	熊谷 一男	吉田 忠良	中野 淳司	黒田 勝末	村上 明
末 スミ子	西平 崇子	中村 鎮雄	中島 岳三	佐々木知子	前 映臣	片田 史志	小谷 光栄	有村 久信	三浦 功	吉井 昭裕	岡師 利信	泉田 隆夫	大谷 章啓	則武 利明	白井 和枝	柴田 勝利	野村 勝忠	北西喜代春	田中喜佐雄	大部 正勝	伊藤 芳輝	金子トミ子	玉井 澄成	山崎 孝根	上杉 武	菊池 和幸	住野 勝美	齋藤 祥吾	柘植 宗尚	松田 満	岩元英三
山下加津子	宮崎 政夫	宮内 道男	井上 生二	畑山 利秋	二宮 秀	赤川 一	坂川 俊夫	前川 由美	北野 彰二	池上 明隆	工藤 弘文	牛之濱俊幸	太田 彩乃	高橋 正春	金丸 貢	長谷川嘉文	永田 晃康	三好 洋子	斎藤 征右	中山 嘉子	中山 教和	近藤 亮太	福田秀太郎	佐藤万一郎	能勢 邦彦	木場 三郎	柳家さん枝	本部 官	鳥越 幸子	松田 静枝	田中 徹

中村 義幸	福田シズイ	鈴木 金	福田 勝美	折田 文志	松下恵津子	名取 和久	野口 実	浦本 歳廣	北口 正春	高吉 哲夫	千代田純枝	江藤 一枝	上瀧 完子	平島喜代美	大村 定利	杉田 和美	藤原藤次郎	宮崎 洋子	山下 充	今野 里美	和田 辰行	藤川 三幸	國崎 光栄	大隅 紹恵	田中 勇	徳川 斉正	西元 光二	中村 英雄	渡辺 秀子	椎葉 社	波戸崎 昇																								
貴島 直也	山本 成市	平林 稔久	松橋 讓	片山恵美子	片山 詔一	津嶋征志郎	糸谷 文雄	谷口 論	中野 弘光	木田伊津子	山下 守	八坂 妙子	藤木 悌一	三ツ山秀俊	森田 孝一	松山 芳尚	野村由紀枝	麦田 博稔	竹部 孝康	三戸部誠一	鈴木 一洋	西村 和雄	松浦 景隆	富田たつ子	中村 恭子	新井 富男	堀内 勇美	金 英雄	古川 和宏	横山 和男	小島 宏恵																								
山口工業	伊藤 五郎	北原 保	岩武 光男	西影 健三	大園 盛通	青木 利夫	伊知地アヤ子	半田 実	千葉かや子	永田 誠一	坪山 浩施	鳥濱 百代	鳥濱加津子	奥村としゑ	加藤 智也	岩林 定巳	福森 英二	渡辺 正王	佐竹 義隆	佐竹 修司	井ヶ倉トミヨ	井手 孝一	山本 求道	中山 貴詩	坂本 康人	前田 光子	森田 正樹	八木田研二	山内 昭人	堀江 秀雄	青井 国男																								
瀧地 重幸	日下よし	川上 俊雄	板場 毅	茂木賢一郎	篠原 忠夫	小川 博之	竹丸エミ子	河崎 守男	中村 美歳	山中 登子	岡田 安弘	上野せつ子	前田 マキ	佐藤 スエ	島山エミ子	寺脇 正守	園田 トヨ	石上 智子	石上 一智	小林 隆子	西田 昇	掛端 愛子	貞政 玲子	三好 寿嗣	藤田 知久	仲野 元	加藤 政雄	五味 義仁	篠江 俊哉	安部 晋左	工藤百合人																								
永田 謙司	日高 国光	伊東 慶	梅野 孝光	竹本 高子	望月繁次郎	河野 隆則	河野 利文	横山 悦和	河野 順子	村上 光勅	出元 益水	海老原悦子	中崎チエ子	斉藤 文夫	芝尾 昌宏	小川 功浩	永野 義治	辻 久雄	山下 明	清水ヒロ子	清水 友子	濱砂 陸治	市川 裕子	廣川健三郎	坂ノ上達男	村田 昭生	奥野 栄一	高橋 秀敏	山本 睦夫	平野 勝治	大岡 都子																								
石橋トシ子	二見 宣長	杉田 利夫	野村 興	角野 晃	大崎 俊房	小川 邦夫	細井 干城	沼本 信子	吉松 秀栄	嶋崎 腆	吉武 護	橋爪 繁	千葉 靖夫	真壁 正	北川恵美子	山田 輝人	伊藤 昭孝	橋本 光作	矢野 直	坂本 又男	谷川 義文	川崎 義明	見城 忠	西澤扶見子	榎木田幸子	原岡 敏夫	後藤みつ子	明澄 行水	田中 幸男	小山 隆士	石田 充																								
安田 一人	中島 実	瀬戸 俊三	戸塚 雄一	小野 ギン	野村 長光	土居弥津美	木澤 義雄	富田 義博	島田 千代	尾崎 重治	(宗庵)神堂	岡崎マサエ	舟橋 勝博	鳥田 修一	木林 誠一	南平 弘子	小川 武	石川 忠利	渡邊長四郎	川添 久平	小畑 精二	瀬高 和芳	西上 敏明	西上 良雄	芝本 肇	齒朶よし江	山口登美子	山本 俊治	佐々木昌弘	徳留 道子	高瀬 璋三	内田 哲哉	内田千鶴子	古川 正人	久田 次代	豊村 昌嗣	原島 素子	北之園勇作	金子 和恵	國本 房江	天神教本庁	大阪事務所	園田さくの	大西しづを	井上 宣彦	吉富 敏江	小林 眞平	籠 仁一	岡崎マサエ	尾崎 重治	松田加代子	戸塚 雄一	小野 ギン	野村 長光	土居弥津美

資料収集にご協力を

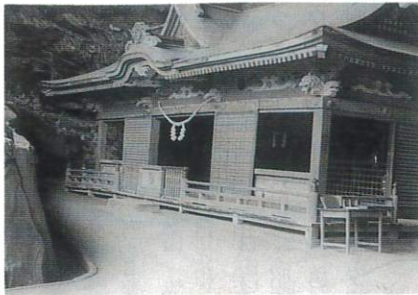
当神宮は、昭和四十五年の社務所焼失により貴重な資料もほとんどが灰となつてしまいました。それから早三十年近くが経過してしまいましたので、当時の事を御存知の皆様が、お元氣なうちに資料収集をする事になりました。つきましては、皆様方で特に昭和四十五年以前の神宮の写真やその他の資料がございましたら、是非御連絡下さいませようお願い申し上げます。

尚、対処方法はその都度協議させていただきます。

連絡先
日南市大字宮浦三三三二
鵜戸神宮社務所内
賽務課
〇九八七
二九一〇〇一



旧社務所



前回改修以前の御本殿

写真奉納

四月五日大阪府在住の森右近様より貴重な当神宮の写真が奉納された。

この写真は昭和三十六年二月二十二日、森様夫妻が新婚旅行で参拝された折りに撮影されたものである。

鶇戸稲荷神社 鳥居奉納

一月二十二日、東元寿一様より鳥居が奉納された。

報告祭は、好天に恵まれ寿一氏他四名の参列のもと午前十一時より厳粛に斎行された。



いさみ太鼓奉納

五月五日のこどもの日、午前十時より地元の子供たち約五十名が、揃いの鉢巻、法被姿で「いさみ太鼓」を奉納した。参拝者も磯に打ち寄せ砕け散る荒波の様子を表現した太鼓・笠・鈴等に、しば

し聞き入り、元気に太鼓を打つ子供たちを、さかんにカメラに収めていた。



佐師宮司 表彰される

五月二十七日、神社本庁に於いて、当神宮の佐師朝規宮司が表彰規程第二条第一号により表彰された。

これは永きにわたり、奉仕神社の経営並に神徳の発揚に力を注がれ、地方教化に貢献された功績が認められたものであり、当神宮としても大変光栄な事である。

新職員紹介

権祢宜 高橋嘉樹

生年月日

昭和四十八年五月二日

最終学歴

国學院大學別科

趣味 野球

常の信条 誠実



巫女 田辺 亜弥

生年月日

昭和五十二年四月二十四日

最終学歴

日南学園高等学校

趣味 ドライブ

常の信条 笑顔



巫女 谷口 愛

生年月日

昭和五十四年一月二十五日

最終学歴

日南振徳商業高等学校

趣味 映画鑑賞
常の信条 ねばり



巫女 平片さやか

生年月日

昭和五十四年三月二十二日

最終学歴

日南農林高等学校

趣味

花の栽培・家事手伝い

常の信条 信じる心



巫女 河野 舞衣

生年月日

昭和五十三年十月一日

最終学歴

日南振徳商業高等学校

趣味 音楽鑑賞

常の信条 素直

